

ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区

眼鏡リサイクルセンター報告書



眼鏡リサイクルセンターはヘレンケラー女史の提言に始まった

ライオンズクラブの視力保護活動の代表的事業です

視覚障害の現状について

視覚障害は、一般に「失明(盲):blindness」と「低視力:low vision」に大別されます。WHO 基準によれば、「失明」は全盲(光覚なし)のみを指すのではなく、「良い方の眼の視力」で 0.05 未満に用いられ、「低視力」は良い方の眼の視力で 0.05~0.3 未満と定義されています。また、「良い方の眼の視力」の定義は、従来の最高矯正視力ではなく、日常的に使用している眼鏡やコンタクトレンズによる屈折矯正下での視力、「現視力」が使われるようになってきています。

最新の検討では、2015 年時点の世界の視覚障害者数は、失明者は 3,600 万人、低視力者は 2 億 1,660 万人の合計 2 億 5,260 万人であり、過去 25 年間の世界における視覚障害対策の成果により、視覚障害者数とその人口割合は減少してきたとされています。しかし、今後は、世界的な死亡率の低下に伴う平均寿命の延伸により、視覚障害者数は今後数十年で急増し、2050 年には失明者は現在の 3 倍の 1 億 1,460 万人に、低視力者は 2.5 倍の 5 億 5,000 万人に増えると予測されています(平塚義宗 日眼会誌 122(7):537-545, 2018)。

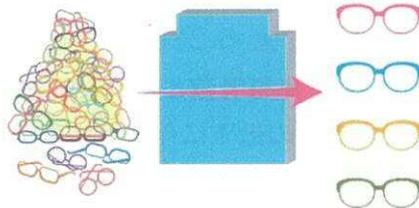
現在、全世界における失明と低視力のそれぞれの有病割合は 0.5% と 3.0% であり、視覚障害は高齢者と女性に多いとされています。失明の最大原因ははまだ白内障であり 35% を占めています。視覚障害の大きな原因であったトラコーマやオンコセルカ症などの感染症は、過去 25 年間で大幅に減少しました。今でも、世界における低視力の最大の原因は、未矯正の屈折異常であり全体の 52% を占めています。続いて、白内障 25%、加齢黄斑変性 4%、緑内障 2%、糖尿病網膜症 1% が低視力の原因となっています。視覚障害全体では、未矯正の屈折異常と白内障の両方で全体の 3/4 を占め、屈折矯正や白内障手術などの対策により克服できる課題が、未解決のまま残されています。ライオンズクラブは、これらの疾病の克服に向かって現在も活動を継続しております。

ライオンズ眼鏡リサイクルセンター

発展途上国において眼鏡を必要とする人々を支援するため、不要となった眼鏡を収集する眼鏡のリサイクル事業は、世界的奉仕団体であるライオンズクラブの代表的な活動となっております。収集された中古眼鏡は、再利用化され、眼鏡が無く困窮している地域に送られます。回収された眼鏡を再生する施設である眼鏡サイクリングセンターは、アメリカ(複数)、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパなどにあります。これまで、日本では各地のライオンズクラブが眼鏡を収集し、集められた眼鏡を海外の眼鏡サイクリングセンターに発送しております。ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区は、このシステムを改善していくことを考え、地区の事業として眼鏡リサイクルセンターを平成 29 年に立ち上げました。

一方、本邦においては、障害者就労支援事業所が障害者の方々に就労の機会を提供しております。国内の中古眼鏡を再利用化する作業を、作業労賃と共に就労支援事業所に依頼することは有益な就労支援となると考えられます。すなわち、各ライオンズクラブが回収した中古眼鏡を、障害者就労支援事業所に作業労賃と共に斡旋することは、十分に有益な奉仕事業になります。

332-C 地区眼鏡リサイクルセンターは、「福祉的就労に従事する障害者」に眼鏡リサイクル作業を依頼し、再利用化されたリサイクル眼鏡を、発展途上国において海外医療奉仕活動を行う医療チームと、眼鏡を必要とする患者や屈折異常を持つ人々に寄贈することを目的として活動しております。



眼鏡を回収 ⇒ センター ⇒ 再利用へ



洗浄後に屈折度を計測 屈折度データが見えるように包装

日本眼科国際医療協力会議 理事長 藤島浩先生よりの感謝状



眼鏡寄贈に関する年次ごとの報告

《 FY 2023 》

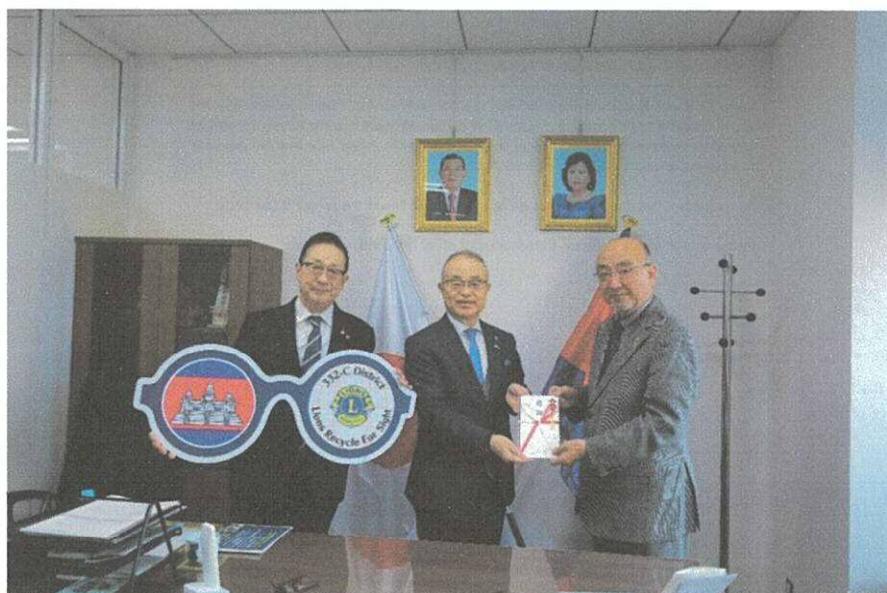
1. カンボジア王国へ 29,000 本の眼鏡を寄贈

カンボジア王国(Kingdom of Cambodia)は、インドシナ半島の中央に位置し、豊かな自然の恵みに支えられ、アンコールワットをはじめとした数々の世界遺産がとても有名な国です。長い内戦の時期を乗り越え、1993 年に新生カンボジア王国が誕生しました。現在は、治安や経済も安定期に入り、復興へと着実に歩みを進めています。日本のライオンズクラブを含め、世界各国の支援団体が学校の建設を始めとする支援活動を継続しております。

一方、医療の水準は途上にあり、様々な課題が残されております。カンボジア王国の人口は 約 1,700 万人ですが、国全体で眼科医が数十人程に限られています。特に、地方での眼科の医療水準は途上にあり、視力保護活動の拡充が求められています。

ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区眼鏡リサイクルセンターは、カンボジアにおける視力保護支援をひとつの活動目標としました。2023年11月30日に、カンボジア王国保健省向けに在仙台カンボジア王国名誉領事館に29,000本の眼鏡を寄贈しました。これらの眼鏡は、首都プノンペンの王立病院に届けられ、その後国内の受益者に提供されました。

2023年11月30日 在仙台カンボジア王国名誉領事館にて贈呈式



左 木川田明弘委員長 中央 田井進名誉領事 右 渡邊俊弥ガバナー

ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区眼鏡リサイクルセンター殿

大変お世話になっております。本日、ご寄贈いただいた眼鏡を関係各所へ引渡しを行いました。カンボジア王国空港大臣に16,000個、計画省に10,000個、情報書に3,000個を贈りました。空港大臣へのレター、空港大臣の受取サイン、眼鏡運搬の様子をお送りいたします。どうぞご査収ください。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

在仙台カンボジア王国名誉領事館 名誉領事 田井 進

田井名誉領事からのカンボジア王国政府機関への寄贈書



Honorary Consulate
of the Kingdom of Cambodia in Sendai

Sendai, 08 Aug 2024

No.314/2024-HCS

His Excellency Mao Havannal
Minister-in-charge of State Secretariat of Civil Aviation

Dear Excellency,

I would like to express my sincere gratitude for your continued support and understanding towards the Honorary consulate of the Kingdom of Cambodia in Sendai.

Under your wise leadership and dedication to community service, I am honored to join with you in donating 16,000 medical glasses (160 cardboard boxes) via the Royal Embassy of Cambodia in Japan. These items were shipped from Japan in late June and are expected to arrive in Cambodia in late July or early August.

I am confident that these donations will be of significant benefit the people of Cambodia.

Please accept, your excellency, the assurances of my highest consideration.

Sincerely yours
Advisor to the Prime Minister of Cambodia
Honorary Consul
of the Kingdom of Cambodia in Sendai
TAI Susumu



Hakomori Building 7F, 1-6-6, Karasagi, Aoba-Ku, Sendai-City, Miyagi 980-0011 Japan

Tel : 022-332-4891 Fax: 022-323-4562
Email : sendai-kg@sendai-cambodia.com



奉仕用眼鏡は政府関係者によりニーズのある地域に配送されました

2. ザンビア共和国 視覚保護支援



ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区 眼鏡リサイクルセンターは、ザンビア共和国中央州保健局および認定 NPO 法人ロシナンテスとの連携のもと、1,000 本のサングラス(JINS 社製:新品)をカブエ中央病院 (Kabue Central Hospital) に寄贈しました。眼科は年間 12,000 人(うち新規患者 8,000 人)の患者を受け入れており、サングラスに対する需要は非常に高いものがあります。患者のほとんどが、一年の大半を屋外で過ごす労働者であり、紫外線に長時間さらされる結果、白内障が早期に発症しているためです。特に、白内障はサングラスを購入できない人たちに多くみられます。また、角膜に外傷を受け、視力が低下して視覚障害となる人も少なくありません。眼科を訪れる患者の大半は、貧困地域に住んでおり、サングラスを購入する金銭的余裕がないことに加え、購入に必要な移動は交通費負担が大きく購入を諦める人がほとんどです。病院側にもサングラスを無償配布する予算はなく、十分な数を供給できていない現状があります。これまで、外部からの支援は、手術や術後の薬の処方のみが実施され、眼鏡の提供の実績はありませんでした。

病院を通じて患者に当センターからのサングラスを配布することで、適切な診断のもと必要とする人たちにサングラスを支給することが可能となりました。特に 院外活動において重点的に提供されたことにより、病院へのアクセスが容易でない患者の予防や術後ケアに有効でした。今回の寄贈は、ザンビア共和国で医療支援活動を行っている NPO 法人ロシナンテスとの協働により実現しました。ロシナンテスは 2019 年以來、中央州にて複数の奉仕プロジェクトを実施してきており、行政との強いパイプを有しています。ロシナンテスには、受入手続や受贈後のモニタリングに携わり、寄贈者・受益者を繋げる役割を担っていただきました。



ザンビア共和国カブエ中央病院での開梱の様子

3. 宮城アフリカ協会との連携によるスーダンへの眼鏡の寄贈

ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区眼鏡リサイクルセンターは、宮城県アフリカ協会 (AFAM) との連携により、スーダン共和国マッカ病院に向けて眼鏡寄贈を行いました。宮城県アフリカ協会 (AFAM) は、宮城県在住のアフリカ人と日本のコミュニティとの交流を促進することを目的として、2002 年に設立されました。AFAM は宮城県から承認を受けた唯一のアフリカ系団体であり、アフリカ開発に関する公開セミナーや、アフリカの価値観や文化の理解を広めるイベントなどを行っています。活動メンバーは、東北大学に留学しているアフリカ人留学生が中心となっています。

会長の Dr. Isaac Yaw Asiedu (アイザック・ヤウ・アスィードウ) さん(東北大学非常勤講師/工学博士)とスーダンから東北大学に留学中の Jamila さんが、マッカ病院までの輸送を担当しました (写真は、マッカ病院での活動の様子です)。今後も、AFAM にはアフリカ諸国と眼鏡リサイクルセンターを繋げる役割を担ってもらうことになります。



《 FY 2022 》

1. カンボジア王国・保健省へ 9,000 本の眼鏡を寄贈

宮城県仙台市には、カンボジア王国が ASEAN 各国の中では唯一名誉領事館を設置しております。この在仙台カンボジア王国名誉領事館の田井進名誉領事のご尽力により、カンボジア王国の国立病院に向けた奉仕用眼鏡の寄贈のルートが開けました。カンボジア王国では、眼科の医療水準は発展途上にあり、特に地方での視力保護活動の拡充が求められております。ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区眼鏡リサイクルセンターからの眼鏡の提供は、カンボジア王国の低視力者の低減に大きく貢献することが期待されます。FY2022 には、約 9,000 本 of 眼鏡を寄贈しました。この眼鏡は、カンボジア王国のコンテナ船および陸路で運ばれ、首都プノンペンの中核病院に届けられ、その後国内でニーズのある地域に配分されました。



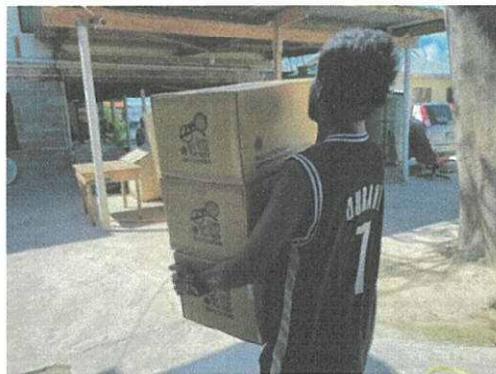
2022 年 11 月 21 日
田井進名誉領事が首都プノンペンの Calmette 病院を訪問し病院長の Kong Sonya 先生に眼鏡を贈呈



2022 年 11 月 22 日
田井進名誉領事がカンボジア王国保健省を訪問し、保健大臣モン・ブンヘン閣下に寄贈しました

2. キリバス共和国に奉仕用眼鏡 2,500 本を寄贈

キリバス共和国は、太平洋上に位置するギルバート諸島、フェニックス諸島、そしてライン諸島などを領土とする国家で、陸地が少なく水没の危機が指摘されています。2018年9月に、仙台市出身のキリバス共和国名誉領事のケンタロ・オノ氏が帰国された際に、サングラス100本を寄贈した経緯があり、その後も連携を深めておりました。このことがきっかけとなり、キリバス国保健医療サービス省から眼鏡の要請があり、奉仕用眼鏡2,500本を寄贈しました。眼鏡は、2022年9月にキリバス国保健・医療サービス省に引き渡され、首都タラワにあるツンガル中央病院眼科で配布されました。



キリバス共和国ケンタロ・オノ名誉領事より眼鏡寄贈へのお礼状

拝啓 残暑が続く毎日でございますが、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。さて皆様のご理解とご支援により、2500 個のリサイクル眼鏡のご寄贈をキリバス共和国に賜りました。これら賜りましたリサイクル眼鏡は9月3日に、同国保健・医療サービス省に引き渡され、同日から首都タラワにあるツンガル中央病院眼科で処方と配布が始まりました。キリバスは、赤道直下の強い日差しとサンゴの砂の白い地面により、視覚に問題を抱えている人が多くおります。また眼鏡の入手が大変困難であり、軽度の近眼でも眼鏡を入手するため数か月待つ必要があるなか、沢山のキリバスの人々が視界を取り戻し、愛する人々やキリバスの美しい自然の姿を再び見ることができるようになりました。キリバス保健・医療サービス省、ツンガル中央病院眼科、そして今回視界を取り戻した皆さんから、皆様に心からの感謝を伝えてほしいとの伝言を預かっております。改めまして、皆様のご厚情に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。また、これを機会に継続的なご支援、そして SDGs の達成が国の存亡に係るキリバスに、様々なご高見を持ちの皆様の、他分野に渡るご協力とご支援を賜ることができれば幸甚です。末筆となりますが、気温差が大きくなって参りました。どうかくれぐれもお体に気を付けてお過ごしください。敬具

《 FY 2021 》

1. カンボジア王国へ眼鏡 9,600 本と JINS 社からのサングラス(15,000 本)の合計 24,600 本を寄贈

2021年10月には、カンボジア王国へサイクル眼鏡9,600本とJINS社からのサングラス(15,000本)の合計24,600本を寄贈しました。カンボジアにおける失明有病率は、50歳以上では2.5%と推計され、人口増加と高齢化の進展、平均寿命の延伸によって、失明者数は今後も増加していくことが予測されています。カンボジア王国では、人口100万人あたりの眼科医数も5人ほどで、WHO(世界保健機関)が推奨する10人の半分に留まっています。国内の眼科医師は偏在化が著しく、約7割が首都プノンペンに集中し、それ以外の地域では顕著な眼科医師の不足が問題となっています。さらに、眼科検診制度は未だ不十分で、回避可能な失明原因への対応が後手に回っている現状があります。失明原因のうち80.9%は治療可能、5.9%は眼科診療で予防可能、5.4%は高度な眼科医療によって治療可能と考えられております。カンボジア王国保健省は、2030年までに失明率を大幅に低減することを目標としており、当センターからの奉仕用眼鏡はその目標達成に大きく貢献するものと思われま



奉仕用眼鏡はニーズのある地域で保健省職員により配布されました

《 FY 2020 》

1. カンボジア王国・王立クメール・ソビエト友好病院に奉仕用眼鏡14,000本を寄贈

2020 年秋には、日本眼科国際医療協力会議(JICO)事務局から特定非営利活動法人 サイド・バイ・サイド・インターナショナル(SBSI)をリサイクル眼鏡の寄贈先としてご紹介をいただきました。SBSI は、貧困や災害その他の困難な状況に直面している人々の生活向上のための人道的支援活動を展開している国際 NPO 法人です。カンボジアの国家事業として実施されている救急医療システムの構築事業にも携わっています。今回は、度付きリサイクル眼鏡と JINS 社サングラスおよびブルーライト保護用眼鏡の合計約 14,000 本を寄贈しました。これらの眼鏡は、コンテナ船に積み込まれて輸送され、カンボジアの首都プノンペンにある国立クメール・ソビエト友好病院に寄贈されました。国立クメール・ソビエト友好病院の病院長は眼科医であり、その指導により奉仕用眼鏡は有効に活用されています。また、カンボジア赤十字社の代表を務めるカンボジア王国王女より感謝のお言葉をいただいております。



カンボジア王国赤十字社の職員により地方の受益者に届けられました

2. コロナウイルス感染症対策として、医療施設に 8,000 本の保護眼鏡を寄贈

東北大学病院・東北大学医学部・東北医科薬科大学病院・宮城県立こども病院・宮城県南中核病院・仙台市立病院等に、2020 年 4 月 24 日、眼への飛沫感染予防のための保護眼鏡（JINS 社製の花粉症対策眼鏡）約 8,000 本を、緊急支援策として寄贈し、有効に活用いただきました。未曾有の危機的状況において、このような医療従事者向けの支援物資は、本当に心の支え手なると各病院長から感謝のメッセージをいただきました。

《 FY 2019 》

1. リトアニア共和国・盲人協会に奉仕用眼鏡寄贈

リトアニア共和国は、バルト三国の中では最も南に位置し、ソビエト連邦の崩壊に伴い独立を回復、2004年に欧州連合(EU)そして北大西洋条約機構(NATO)に加盟した国です。在リトアニア共和国大使と東北福祉大学ライオンズクラブの連携から、奉仕用眼鏡の寄贈が成り立ちました。その際には、下記のようなレセプションが日本大使館で催されました。

日時 2019年8月20日(火)12時～14時 在リトアニア日本国大使公邸
出席者 《在リトアニア日本国大使館》 山崎史郎特命全権大使、同夫人、大使館職員 3名他
《東北福祉大学ライオンズクラブ》 草間吉夫・山口慶子
《リトアニア国ライオンズクラブ関係者》
カウナス地区ガバナー バルト海 LC 会長 カウナス LC 会長
《寄贈品 リサイクル眼鏡 1,000 個》

山崎リトアニア全権大使の挨拶から

リトアニアと日本との間で、社会福祉の友好を大変嬉しく思います。リトアニアでは、眼鏡は
いまだ貴重品であり、ライオンズクラブの奉仕活動に心より感謝いたします。今回のライオンズ
クラブの奉仕活動が、日本とリトアニアの友好の架け橋となることを期待しています。



リトアニア日本大使館でバルト海ライオンズクラブ会長に奉仕用眼鏡を寄贈

2. POSA:Project Operation Sight for All (代表:倉富彰秀先生)への寄贈

バングラデシュでは、白内障による失明者が増加しています。POSA は、経済的な理由から白内障手術を受けられない患者を対象にアイキャンプによる活動を実践してきました。首都のダッカ大学で、現地の患者に眼内レンズ手術を実施するとともに、眼科衛生に関する知識の普及や公衆衛生活動の指導を行ってきました。この POSA に、地区眼鏡リサイクルセンターは術後に使用する眼鏡を提供し、バングラデシュの視覚保護に貢献してきました。

第2回 2019年 2月:度付眼鏡 1,000 個とサングラス 400 個を寄贈

第1回 2017年 12月:度付眼鏡 180 個とサングラス 30 個を寄贈

ダッカ大学での白内障アイキャンプの様子(POSA)



サングラスは術後保護眼鏡としても極めて有用です

《 FY 2018～FY2017 》

1. 特定非営利活動法人日本ミャンマー交流協会との連携によるヤンゴン第一医科大学所管ヤンゴン眼科病院への眼鏡寄贈

- ☞ 第3回 2019年2月 : 度付眼鏡 800 個とサングラス 800 個、総計 1,600 個
- ☞ 第1回 2017年12月 : 度付眼鏡 180 個を寄贈
- ☞ 第2回 2018年3月 : 度付眼鏡 600 個とサングラス 120 個、総計 720 個

ヤンゴン眼科病院は、ミャンマー最大の眼科病院で、約 60 名の眼科医師が勤務し、ミャンマー国内の医療の中心的な立場にあります。日本ミャンマー交流協会は、徳島市・藤田善史医師を中心として設立され、ヤンゴン眼科病院での白内障手術、ミャンマー人眼科医に対する眼科手術教育、保健省に対する手術器械や器具の寄贈を行って来ました（現在は政変のため中断しています）。地区眼鏡リサイクルセンターは、日本ミャンマー交流協会に眼鏡を寄贈し、その活動を支援しました。

2. モンゴル国の学校法人新モンゴル学園への寄贈

モンゴルでは、日本の高等専門学校教育を導入する機運が高まり、2009 年には日本の高等専門学校関係者などが「モンゴルに日本式高専を創る支援の会」を設立、2014 年にウランバートルにモンゴル科学技術大学附属高専、私立の新モンゴル高専、モンゴル工業技術大学附属高専が開校しました。東北大学に留学し教育学を学んだジャンチブ・ガルバドラツハ先生が、日本式高等学校「新モンゴル学園」を設立し、その後小中学校、さらに「新モンゴル工科大学を設置するなど、モンゴル国内の教育界に大きな影響力を有しております。山形蔵王ライオンズクラブとの連携のもとで、2018 年 7 月に、奉仕用眼鏡 4,400 本と HOYA 社からのサングラス 6332 本、合計 10,732 本を寄贈しました。届けられた眼鏡は、現在もモンゴルの教育機関により、モンゴル国内の盲学校やサングラスを必要とする受益者の方に継続的に配布されています。





モンゴルの盲学校への奉仕用眼鏡の寄贈の様子

3. スーダン共和国への眼鏡の寄贈

スーダン共和国はアフリカで3番目に大きい国で、人口は4500万人です。しかし、国内には、眼科医が120人しかおらず、眼科病院は都市に局限しています。規模が最大で、首都にあるマッカ病院は巡回診療を実施して眼科医療を実施しています。この病院の支援を目的に332-C地区眼鏡リサイクルセンターは、2019年9月、東北大学留学生のズビダ女史と協力し、マッカ病院のアイキャンプに約4,000本の眼鏡を提供しました。この活動の評価は高くされ、事業の継続が期待されています（内戦勃発のため一時中断）。



スーダン人留学生 Zubidah Alamin 女史による眼鏡の配布

4. NPO 法人ロシナンテスとの連携によるスーダンへの眼鏡寄贈

九州大学客員教授の川原尚行先生により設立され、スーダン共和国の医療奉仕活動を開始した認定 NPO 法人ロシナンテスは、井戸を掘り給水施設を作る、あるいは学校を建てるなども、医療につながると考え、あらゆることを含めて「医」と表現して活動しています。地区眼鏡リサイクルセンターは、ロシナンテスの要望に応じて2019年3月に、2,300本の眼鏡を提供しました。その結果、JICA のメンバーに託した眼鏡がロシナンテスの支援するザンビア共和国の盲学校にも配布され、盲学校から通常学校に移ることのできたザンビアの少女のビデオメッセージが届きました。

5. NPO アジア失明予防の会(代表:服部匡志先生)およびファイトフォービジョン(代表:藤島浩先生)への眼鏡寄贈

- 👓 第2回 2018年12月:眼鏡600個とサングラス600個を寄贈
- 👓 第1回 2017年9月:眼鏡100個とサングラス1,000個を寄贈

NPO アジア失明予防の会は、ベトナムの眼科治療およびその技術指導にご尽力されている京都府立医科大学眼科出身の服部匡史医師により設立されたボランティア団体です。

服部医師をモデルにしたNHKドラマスペシャル「ベトナムの光～ボクが無償医療を始めた理由～」は、2019年1月12日(土曜日)に放映されました。ファイトフォービジョンは、日本眼科国際医療協力会議理事長・藤島浩鶴見歯科大学眼科教授が、2010年からカンボジアへの医療機器の寄贈からスタートし、ベトナムおよびカンボジアでの白内障手術キャンプの実施などにより、眼科国際医療協力を推進されております。地区眼鏡リサイクルセンターは、アジア失明予防の会およびファイトフォービジョンにリサイクル眼鏡を提供し、活動を支援してきました。

6. タンザニア眼科支援チーム（代表：山崎俊先生）への眼鏡寄贈

👓 2017年9月：度付眼鏡180本とサングラス50本を寄贈

朝日大学眼科・堀尾直市教授と山崎眼科院長・山崎俊先生は、2007年よりタンザニア連合共和国の国立ムヒンビリ大学病院眼科での超音波白内障手術の教育を主な目的として活動を進めております。また、より充実した眼科医療の普及を目的に、現地病院へ必要な機器、器材を寄贈しています。地区眼鏡リサイクルセンターは、タンザニア眼科支援チームにリサイクル眼鏡を提供しました。

7. アフリカ眼科医療を支援する会（徳島大学・内藤毅先生）への眼鏡寄贈

人口約2千万人のモザンビークには眼科医が13人しかおりません。徳島大学眼科の内藤毅教授は、アフリカ眼科医療を支援する会 Association for Ophthalmic Support in Africa (AOSA) を設立し、毎年アイキャンプを実施されております。地区眼鏡リサイクルセンターは、内藤先生の要請に応じて眼鏡およびサングラスを提供してきました。

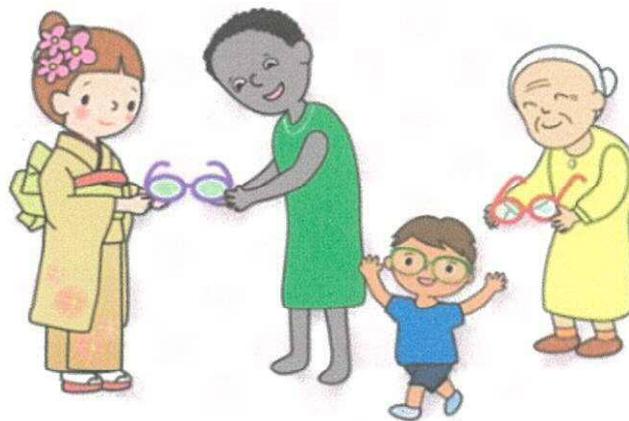


まとめ

リサイクル用眼鏡を寄贈する奉仕活動は、発展途上国の眼科医療をサポートし、視覚障害者を低減させることに寄与しております。日本国内で収集されたリサイクル眼鏡は、発展途上国にて屈折異常で困っている方々に本当に役立っております。

本事業は、受け取り手があって始めて成立いたします。特に、貧困や医療システムの不備により眼科医療や診察を十分に受けられない国で、眼科治療と手術を提供している団体や、教育支援に携わっている団体との連携が本事業の発展には欠かせません。本事業の発展のために、リサイクル奉仕活動用眼鏡の受け取り手として適正な団体や病院をご存知の方は、是非ご紹介いただきたいと思っております。

今後とも、引き続きライオンズクラブ国際協会 332-C 地区眼鏡リサイクルセンターを宜しくお願い申し上げます。



報告者：ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区 眼鏡リサイクルセンター副委員長
仙台エコーライオンズクラブ 仙台こだま支部
東北大学医学部眼科学教室臨床教授 山口克宏